

## 令和3年度第2回高大連携研修会報告書

日 時：令和3年12月15日（水）15時30分から16時20分  
形 式：オンライン（Zoom）  
参 加：大学11人、短大23人、事務10人、高校38人 合計82人  
講 師：石川県教育総合研修センター  
GIGA スクールサポート課 担当課長 河内 大介 氏  
GIGA スクールサポート課 指導主事 垣内 貴司 氏  
GIGA スクールサポート課 指導主事 上原 智光 氏

会に先立ち、短大教育改革推進センターの吉岡センター長から挨拶

GIGA スクール構想について石川県内の状況や今後の展開、取り組み事例などについて、石川県教育総合研修センターGIGA スクールサポート課から講師に研修会を開催した。

河内氏からは、GIGA スクール構想の仕組みについて講演いただき、上原氏からは、石川県内のICTを利用した具体的な取り組みについて講演いただいた。

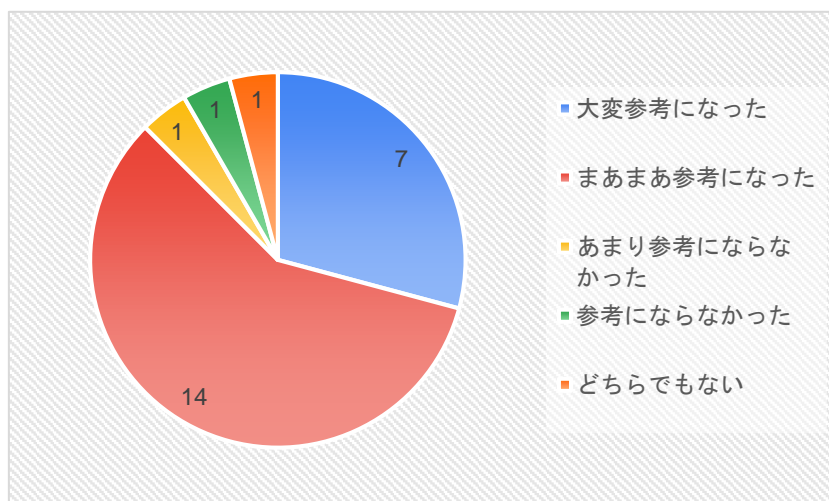
小学校・中学校は既に一人一台のタブレット等が貸与されており、石川県内の高校では来年度からChromebookが一人一台貸与されることとなっている。

GIGA スクール構想では、ICTの有効な活用場面を「一斉学習」、「個別学習」、「協働学習」の3つの場面などに分けて取り組み、学習への興味・関心を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現や個に応じた指導の充実に向けて動いている。

今回の講演の内容を参考に、本学としてどのような取り組みが必要なのかなどが、少しみえてきたと感じている。

### ◇ アンケート報告

#### I. 本研修は参考になりましたか？



#### II. 感想をご自由に記入ください（質問がこちらにご記入ください。）。

1. 今後の学習方法としては大事だと思うが、個人的に小中高の現場の声を確認したところ、説明程の活動がまだまだ進んでいないようなので、研修会をもっと多く実施する必要性を感じた。我々にも、十分な対策が必要と思う。

2. なんとなく知っているような内容でした。クロムブック、Windows、IPad、それぞれのメリットとデメリット、なぜ石川県がクロムブックを推奨するのかを教えていただきたいです。IPadの方が携帯とリンクさせることも可能で作業しやすいのではないかと考えていました。
3. 県で学生に貸与してしっかり学んでいるという現実を知り、大学での授業のやり方も、もう少し進歩していかなければいけないと、強く感じた。
4. 石川県内の小中高および特別支援学校では、PCの一人一台の普及と学習への活用が進んでいることが分かりました。今後の進学してくる生徒は、こうした学習がデフォルトの状況ですでに学んでいることを把握したうえで、短大で行う授業をブラッシュアップしていくことの大切さを実感しました。また、短大の授業でもこのようなPCそしてオンライン学習の方法をより検討し、オンラインだからできる高次元の学びの可能性を示せるのではと様々な示唆を含んだ内容で学びがありました。ありがとうございました。
5. 文科省の取り組みが理解できました。
6. 次回機会がありましたら、グーグルクロームを使用した効果的な授業について、また、特に家庭学習、協働学習における成果について、具体例を挙げてご教示願えたらと思います。
7. 小中高のPCを活用した学びの方法の変革について知れた。
8. 高校までの今後の取り組みが分かったのがよかった。高等教育もこれらを前提とした内容、やり方をしていかなければならない。
9. そうした環境下で学習した生徒さんが2025年には進学してくるので、大学内の環境も整えていければと思う。
10. 小中校でのICT教育の現状がわかってよかった。来年公立高校生全員がchromeブックを持つとなると、それを前提に本学のICT教育も考える必要がある。希望としては、chromeブックを利用して石川県の高校で具体的にどのような授業を行っているか、動画等で確認出来たらいいと思いますが可能でしょうか？
11. 県立高校でギガ構想の取組が、どんどん進んでいることを実感し、大変驚きました。そして、数年後にはICTを文房具のように使いこなせる学生が入学してくることを考えると、学科としていろいろな準備をする必要があり、何よりも、自身のスキルアップをしなければならぬと痛感しました。学科で、今後、検討していきたいと思います。有難うございました。
12. GIGAスクールから大学や短大を経て社会人になる人が多いが、大学や短大でのICT教育に求めるものは何かもお聴きしたかった。
13. 公立の学校に対しては「GIGAスクール構想」へのサポート体制が確立していることが分かった。私立学校の今後の推進方策、サポート体制が気になる。

### III. 今後、取り上げて欲しい研修会がありましたらご記入ください。

1. 同様の具体事例にそったものを。
2. 高校で来年から必修となるプログラミングについて、先進的な取り組みをご紹介願いたいと思います。また、新課程への移行で全高校生がプログラミングを学ぶようになった場合、大学・短大におけるIT教育はどう変わるべきなのかを取り上げていただけたらと思います。
3. 今回の研修のように、高校までの教育内容で、従来から変わってきた内容について。
4. 具体的な教育資料の作成と伝達の方法など、実践力が付く研修も良いかと思えます。

以上